

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間令和 4 年 9 月 12 日
室蘭開発建設部 広報官

報道機関各位

「室蘭港港湾施設群」が 「土木学会選奨土木遺産」に認定されました！

室蘭港の歴史的な港湾施設が、令和4年度土木学会選奨土木遺産に認定（9月9日）されました。室蘭港としては初の認定となります。

室蘭港港湾施設群は、国内有数の石炭積出港として我が国の近代化と鉄の街の飛躍的發展に貢献した港湾の歴史と技術を伝える構造物群です。

名称： 室蘭港港湾施設群

所在地： 北海道室蘭市

構成施設： ①南防波堤、②北防波堤、③旧大黒島灯台、④旧国鉄ふ頭（現 入江フェリーふ頭）、
⑤旧北荷ふ頭、⑥本輪西ふ頭（栗林商会専用埠頭）、⑦北日本ふ頭

管理者等： 北海道開発局、室蘭市、室蘭埠頭株式会社

※ 土木学会選奨土木遺産の認定制度は、土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として平成12年度に創設されました。その結果として、社会へのアピール、土木技術者へのアピール、まちづくりへの活用などが促されることが期待されています。

・土木学会選奨土木遺産ウェブサイト https://committees.jsce.or.jp/doboku_isan/

※ 北海道の港湾としては、これまで、小樽港（平成12年、平成21年）、稚内港（平成15年）、函館港（平成16年）、網走港（平成18年）、留萌港（平成22年）、松前港（平成26年）、苫小牧港（平成30年）が認定されています。

【問合せ先】

・国土交通省 北海道開発局 室蘭開発建設部 室蘭港湾事務所

所長 久保 純一 電話 0143-27-2101

室蘭開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/mr/>

・室蘭市港湾部港湾政策課

課長補佐 長澤 真利 電話 0143-22-3192

・室蘭埠頭株式会社

取締役 小田桐 秀明 電話 0143-22-8145



室蘭港港湾施設群



- ① 南防波堤： 1918(大正07)年着工・1938(昭和13)年完成
- ② 北防波堤： 1921(大正10)年着工・1927(昭和02)年完成
- ③ 旧大黒島灯台：
1890(明治23)年点灯・1974(昭和49)年消灯
- ④ 旧国鉄ふ頭(現 入江フェリーふ頭)：
1928(昭和03)年着工・1959(昭和34)年完成
1967(昭和42)年、一部のケーソンを北外防波堤に流用
1975(昭和50)年～1994(平成06)年、フェリー埠頭に改修
2005(平成17)年～2007(平成19)年、第2バースを耐震強化
- ⑤ 旧北荷ふ頭： 1937(昭和12)年着工・1940(昭和15)年完成
- ⑥ 本輪西ふ頭： 1924(大正13)年着工・1958(昭和33)年完成
- ⑦ 北日本ふ頭： 1959(昭和34)年着工・1960(昭和35)年完成

0 250 500 1,000 1,500 2,000 2,500 m

室蘭港港湾施設群の概要

- 1875(明治5)年、札幌と函館を結ぶ海陸交通の結節点として室蘭に港が開かれ（2022(令和4)年で開港150周年）、船舶の航行の安全ため、1891(明治24)年に**大黒島灯台**が設置された。
- 1892(明治25)年には岩見沢との間に鉄道が完成し、室蘭港からの石炭の積出が始まった。また、この石炭と噴火湾周辺の砂鉄を利用し、明治40年代初めには製鉄所・製鋼所が室蘭で操業を開始した。石炭・鉄鋼製品を積む船舶が港内で安全に停泊・荷役できるよう、1918(大正7)年に**南防波堤**、1921(大正10)年に**北防波堤**の整備が始まり、ともに1927(昭和2)年に完成した。両防波堤の構造形式は、小樽港などで実績があるものの道内の太平洋側では初となるケーソン式混成堤。本体となるケーソンは、室蘭築港事務所構内の斜路式ケーソン製作ヤードで製作された。
- 防波堤完成後、石炭以外の貨物量も増えたことから、荷役作業の効率化のため栗林商会が自社専用の**本輪西ふ頭**を建設。ふ頭の建設には北海道の岸壁で初めてケーソンを使用。ケーソンは築港事務所の施設を借り上げて製作した。また、後のふ頭拡張工事では、北海道初となるプレパックドコンクリート工法による鉄筋コンクリート構造が採用された。
- 増大する石炭積出量に対応すべく、1934(昭和9)年に**国鉄ふ頭**、1940(昭和15)年に**北荷ふ頭**が建設された。その後、エネルギー政策の転換等により石炭の取扱がなくなると、国鉄ふ頭を再編し**フェリーふ頭**に転用。再編の際に不要となったケーソンは外防波堤の本体に流用された。また、フェリーふ頭の一部の岸壁は、国鉄ふ頭時代の本体はそのままに、耐震強化改良が施された。
- 1959(昭和34)年、東北電力が自社の火力発電所向けに道内炭を自社調達すべく、**北日本ふ頭**を建設。本体は、本輪西ふ頭の拡張工事と同様にプレパックドコンクリート工法による鉄筋コンクリート構造が採用された。（現在は室蘭市が管理）

